



訪問ガイド 2026

ロッシュ王城

ロッシュ・から 12.50€

<https://citeroyaleloches.visit-tickets.com/ja/>・優先入場チケット & 料金



歴史とエクスペリエンス

起源 & 歴史

石に刻まれた500年の物語

GOOGLE 4.6 ★★★★★ 1677レビュー

TIQETS 4.6 ★★★★★ 67レビュー

ロッシュ王城の歴史は、**1013年**にフルク・ネラが岩の岬に主塔を築いたことから始まります。この巨大なドンジョンはフランスで最も壮大なものの一つとなり、数世紀にわたりヨーロッパの要塞建築のモデルとなりました。その後、ヘンリー2世プラントーネットにより約2キロメートルの城壁と堀が築かれ、アンジュー期における戦略的重要性を示す無傷の防御線が形成されました。

中世から近代へ移るにつれ、この砦の役割は変化しました。ルイ**11世**はこの地を王立刑務所に変え、政治的な敵を厚い石壁の中に閉じ込めました。ジャンヌ・ダルクもまた、ランスでの戴冠式前にシャルル7世と会うためにここで滞在し、その決意ある足跡を残しました。1926年の閉鎖まで、孤独が響き渡る収容所として機能した暗い側面は、今日でも刻まれた文字や痕跡を通じて訪れる者に語りかけています。

一方で、王家の館（ロジ）は全く異なる雰囲気を醸成しました。**XV世紀**の百年戦争末期、シャルル7世、シャルル8世、ルイ12世にとって好まれた生活の場となったこの宮殿は、パリの騒々しい宮廷から離れた平和な避難所でした。洗練された芸術文化が花開き、アグネス・ソレルやアンヌ・ド・ブルターニュといった著名な女性たちが、騎士道的な優雅さでこの空間を彩りました。

これらのモニュメントは早期から保護の対象となっており、**1862年**にはドンジョンが、**1889年**にはロジが歴史的記念物として指定されました。この先見性ある保全活動が、現代の都市変貌に対して両施設の建築的完全性を守り、将来の世代のためにその真正性を保証しています。今もなお、インドル川渓谷を見下ろす威厳ある姿で、訪れる者の想像力を掻き立て続けています。

体験

門を通り抜けると、まず目に飛び込んでくるのは37メートルの高さを誇るドンジョンの圧巻的なシルエットです。石畳の床を踏みしめながら狭く急な階段を上っていくと、空気の質感が変わり、中世の重厚な防衛構想が体感できます。窓から差し込む自然光が、何世紀もの歳月を刻んだ石の質感を際立たせ、静寂の中で歴史の息吹を感じることができます。

次に訪れるロワイヤル・ログイスでは、雰囲気は一変します。ゴシック様式の装飾豊かな部屋々は、王室の親密な日常生活を彷彿とさせます。インドル川渓谷のパノラマを望む窓辺では、軍事要塞と居住用宮殿の対比が鮮明になり、訪れる者は単なる観光客ではなく、歴史の一場面に立ち会っているような特別な感情を抱きます。



訪問の準備

実用的な情報

住所

ロッシュの上町。丘の下にあるP1またはP2駐車場からアクセス。地下鉄はありませんが、ローカルバスが利用可能です。

営業時間

9:30～18:00毎日開館。冬季は営業時間が短縮されるため、訪問前にご確認ください。

料金

組み合わせチケットは12,50€から。年齢に応じて子供は無料の場合あり。

見学所要時間

ドンジョンとロワイヤル・ログロを含む自由見学には2時間を計画してください。HistoPadを使用する場合は、さらに1時間追加で確保してください。

写真撮影

フラッシュや三脚なしでの写真撮影は許可されています。ロワイヤル・ログロの窓からインドル川渓谷のパノラマを切り取ってください。

対象客層

ゲームブックやARコンテンツにより家族向けに最適化された施設です。ロワール川沿いの大規模城跡とは異なる静かな歴史体験を求める方にも理想的です。

アクセス方法

アクセス & 交通手段



バス

: 病院 — 4 min à pied

駅 (10 min)・トゥール＝ヴァル・ド・ロワール空港 (165 min)



車

駅 (5 min)・トゥール＝ヴァル・ド・ロワール空港 (134 min)



自転車

駅 (5 min)・トゥール＝ヴァル・ド・ロワール空港 (184 min)



徒歩

駅 (7 min)・ロッシュ王城 (3 min)

LOCALISATION

Où se trouve ロッシュ王城？



📍 7 Mail du Donjon — 37600 ロッシュ

🌐 47°7.492' N, 0°59.808' E

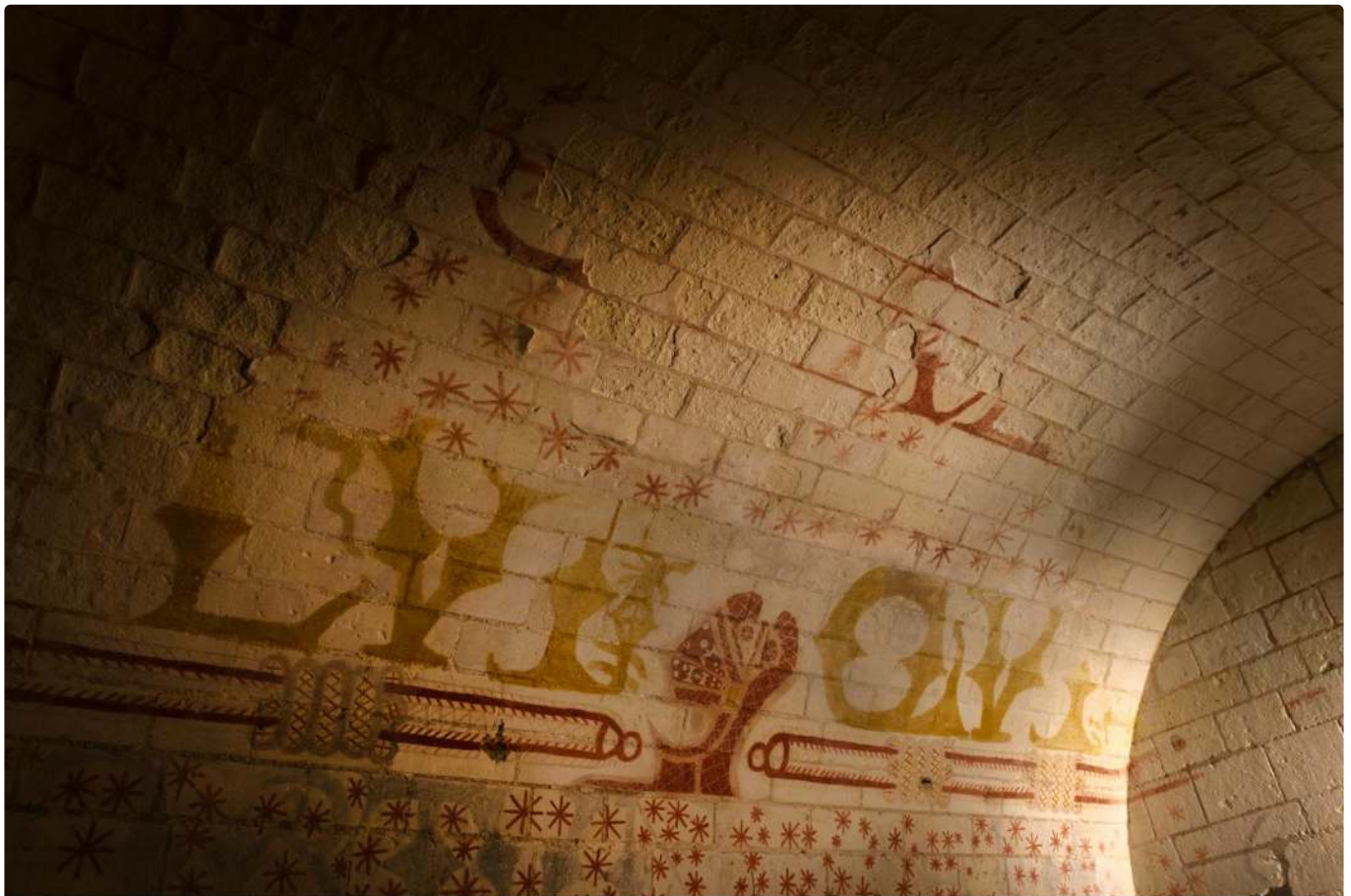


Photo : © - Christophe RAIMBAULT - Cg37

組織

効率的な見学ルート設計

レベル1：ドンジョン基部と入口

13世紀のロワイヤル門から入ります。ここには中世の防衛機構の説明パネルがあり、狭い通路と厚い壁が印象的です。地下階への入り口もあり、かつての牢獄の冷たい空気を感じることができます。HistoPadのARコンテンツを開始するには最適な場所です。

レベル2：ドンジョン上部と展望台

急な螺旋階段を上ると、見事な眺望が開けます。37メートルの高さからインドル川渓谷とロッシュの旧市街全体を見渡せます。壁に残る刻印や塗装は、囚人たちの痕跡を示しており、歴史的な悲劇と希望の証です。自然光を活用した写真撮影に適したスポットです。

レベル3：ロワイヤル・ロギスの居室群

約300メートル離れた王家の館では、シャルル7世やジャンヌ・ダルクが使用した部屋を巡ります。ゴシック・フラムボヤン様式の装飾が施された天井や暖炉が特徴的です。特にジャンヌ・ダルクの間では、彼女の決意と信仰心が伝わってきます。家族向けゲームブックの謎解きにも適した空間です。

アクセシビリティ

車椅子アクセス

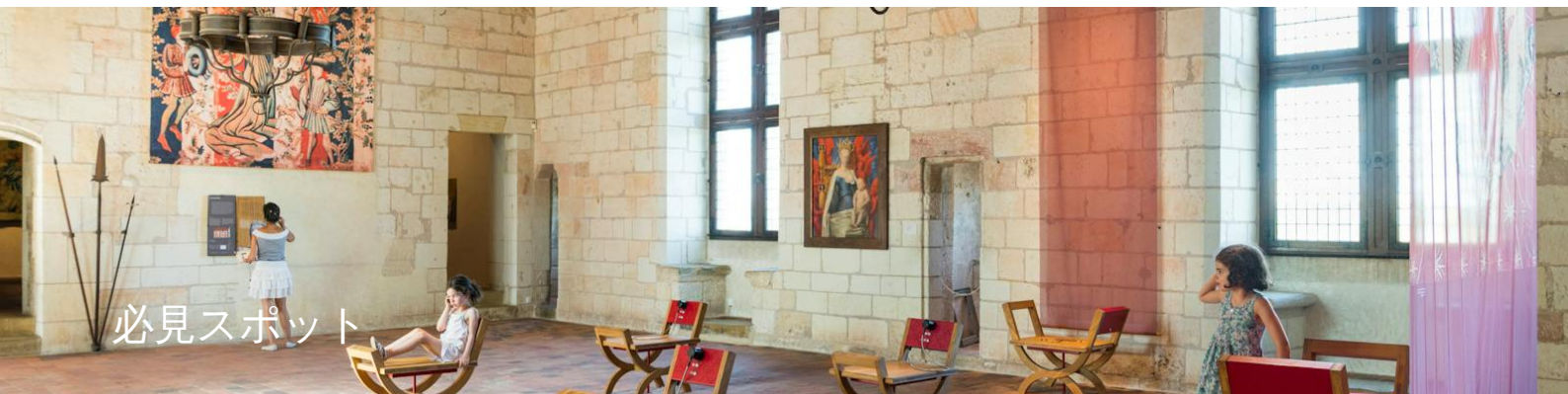
ドンジョンへのアクセスは限定的（階段）。館は比較的アクセスしやすいですが、現地でご確認ください。

ファミリー向け

6〜11歳向けのゲームブックやARサポート専用。安全なコース設定。

オーディオガイド

フランス語, 英語, スペイン語



必見スポット

選択

絶対に外せない8つの発見

01

ドンジョン本塔

フルク・ネラの主塔

1013年から1035年に建造されたこの塔は、フランス最古級の要塞建築の一つです。岩盤の上に直接建てられた構造は、数世紀にわたって地震や攻撃に耐え抜き、今日の我々に中世のエンジニアリングの粋を示しています。壁の厚さと高さは、当時の権力と技術力を象徴しています。

💡 樹齢分析により、建設時期が**1013-1035年**と正確に特定されました。

02

ロワイヤル・ログイス

ジャンヌ・ダルクの間

百年戦争終結期の重要な人物であるジャンヌ・ダルクが滞在した部屋です。ランスでの戴冠式前にシャルル7世と会談した場所であり、彼女の戦士としての決意が感じられます。**1429年**という歴史的瞬間に近づく貴重な空間です。ガイド付きツアーでは、彼女の人生の詳細な解説が行われます。

💡 彼女はここでわずか数日しか滞在していませんでしたが、その影響は永遠に残っています。

03

ドンジョン下部

ルイ11世の牢獄痕跡

ルイ11世が王立刑務所とした証拠が残るエリアです。壁に刻まれた名前や記号は、囚人たちの孤独と絶望を語っています。**1926年**までの長い期間、この石室は政治犯の収容所として機能しました。触れてはいけないとされる壁ですが、その存在感は強烈です。

💡 ある囚人は壁に『自由』と繰り返し刻み続けました。

04

ロワイヤル・ログイス

アグネス・ソレルの寝室

シャルル7世の愛妾だったアグネス・ソレルが使用した部屋です。彼女の影響は王家の芸術文化に深く及び、親密で洗練された雰囲気が漂います。**XV世紀**の王室生活の一端を知ることができる特別な空間です。他の妃たちとは異なる、より個人的なタッチが感じられます。

💡 彼女はフランス史上初の公式王妃以外の愛妾として認知されました。

05

外周部

プラントーネット朝の城壁

ヘンリー2世が12世紀に築かせた約2キロメートルの城壁は、今日でも完全に残っています。インドル川からの風を防ぐだけでなく、上町を守る強力な防御線として機能しました。アンジュー期の建築技術の傑作であり、歩道を兼ねた上部からは美しい眺望が得られます。

💡 この城壁は一度も完全に突破されたことはありません。

06

ドンジョン内全域

HistoPad AR体験ゾーン

最新の拡張現実技術を用いたインタラクティブ体験です。現在の遺跡の上に歴史的画像を重ね合わせ、**11世紀以来の建築進化**を視覚的に理解できます。人間ガイドなしで複雑な歴史を効率よく学べるため、時間のない訪問者やテック好きに推奨されます。1時間で完了できるコンパクトなツアーです。

💡 ARグラス越しに見ると、壁が色とりどりに蘇ります。

07

ロジ1階

ロワイヤル・ログイスのパノラマ窓

インドル川渓谷を見下ろす大きな窓からは、見事なパノラマが広がります。居住用宮殿と軍事要塞の空間的な関係を示す完璧な構図を提供し、写真愛好家には必須のスポットです。自然光が最も美しい午前中に訪れることをお勧めします。窓枠自体もゴシック様式の美しさを持っています。

💡 この窓からは、**300メートル**離れたドンジョンが見えます。

08

受付にて入手

「ロッシュの女性たち」ゲームブック

6歳から11歳のお子様向けに設計されたインタラクティブなパンフレットです。ジャンヌ・ダルク、アグネス・ソレル、アンヌ・ド・ブルターニュの三人の女性の人生を通じて歴史を学びます。カラフルなイラストと簡単な質問により、若い訪問者の注意を引き続けます。家族旅行には欠かせないアイテムです。

💡 子供たちは謎解きに夢中になり、飽きません。

アドバイス

完璧な訪問のための秘訣

TIMING

9時30分の開門時に到着してください。行列なしでドンジョンに登ることができ、学校グループが来る前の静けさを味わえます。また、邪魔な影なしで建築の詳細を撮影するのに最適な自然光を得られます。

PARCOURS

まずドンジョンから始め、その後ロワイヤル・ログイスを訪れるのがおすすめです。体力を使う登攀を先に済ませ、最後にパノラマと居心地の良い部屋でリラックスする流れが理想的です。

PAUSE

見学後、下町の絵画的な路地で昼食を取りましょう。Le Clos des Tanneursなどのレストランで伝統的なトゥーレーヌ料理を味わい、文化的発見を続けながら和やかな雰囲気の中で食事を楽しめます。

AUDIOGUIDE

HistoPadによるARツアーは非常に効率的で、常設の人間ガイドなしで複雑な建築進化を理解できます。英語やスペイン語等多言語対応の可能性もあるため、受付で確認してください。1時間の追加確保が必要です。

BILLET

オンライン予約を強く推奨します。特にモニュメント・ゲームのような技術的準備が必要な場合や、ハイシーズン（夏/休暇期間）には、入場を保証し、県議会窓口での待ち時間を回避できます。

PHOTO

ロジの1階窓からドンジョンと渓谷のパノラマを撮影しましょう。フラッシュや三脚なしでの写真撮影は許可されています。午前中の柔らかい光が最も美しく、建築の詳細を捉えるのに最適です。

ENFANTS

6〜11歳のお子様連れには、「レディーズ・トレジャー」ブックレットをお勧めします。標準的な自由見学よりも、カラフルなイラストとインタラクティブな質問によって子供の注意を引き続けます。安全なコース設定も整っています。

CONFORT

グリップ力の良いスニーカーを履いてください。ドンジョンには狭く急な階段がたくさんあり、石畳の床は不均一な場合があります。ヒールや滑りやすい靴は避け、安全かつ疲労なく上部階層を探索できるようにしましょう。



よくある質問

よくある質問

事前に予約する必要がありますか？

はい、オンライン予約は強く推奨されます。特に技術的準備が必要なモニュメント・ゲームの場合です。ハイシーズン（夏/休暇期間）には、入場を保証し、県議会窓口での待ち時間を回避できます。

ロッシュ王城の入場料はいくらですか？

大人の料金は、ドンジョンとログイスの組み合わせチケットで12,50€から始まります。学生や団体向けの割引料金もあります。公式チケット販売ページで家族向け特別オファーをご確認ください。

現在プロモーションキャンペーンはありますか？

大家族や学校団体向けのグループオファーが時々利用可能です。公式サイトのプロモーションページを定期的に確認し、ロッシュ市が管理する段階割引または有利な固定価格チケットをお得にご利用ください。

ガイド付きツアーは含まれていますか？

はい、フランス語のガイド付きツアーはチケット料金に含まれています。ツアーは2名以上揃えばすぐに出発します。次の出発時刻やテーマについては、受付でお問い合わせください。

ドンジョンとロワジー・ロワイヤルの違いは何ですか？

ドンジョンは軍事要塞（11～15世紀）で、塔や厚い壁が特徴です。ロワジーは居住用宮殿（14～16世紀）で、より快適で装飾的です。両者は約300m離れており、補完関係にあります。

ご存知ですか？

エピソード & トリビア

3時間の包囲戦伝説

リチャード獅子心王はフィリップ・オーギュストからわずか**3時間**で都市を奪還したと言われています。この逸話は、サイトの初期の防御力と中世攻撃の速さを示していますが、その真偽については歴史家間で議論が続いています。驚異的な軍事業績かどうかは定かではありません。

ルディヴィコ・スフォルツァの最期

1508年5月27日、ミラノ公であったルディヴィコ・スフォルツァがここで亡くなりました。彼はルイ11世以来の有名な囚人の一人であり、**500年**以上前の出来事ですが、今日でもニュースとして取り上げられることがあります。彼の死は、この城の暗い歴史の一部を象徴しています。

1926年の刑務所閉鎖

1926年12月27日、ロッシュの刑務所の扉が最後になりました。これにより、**400年**以上続いた収容所の歴史に幕が降りました。この日は現在、記念行事が行われる重要な日となっています。建物は博物館へと生まれ変わりました。

ヴァロワ朝の愛住居

シャルル7世、シャルル8世、ルイ12世にとって、ロジは最も好まれた生活の場でした。パリの騒々しい宮廷から離れた平和な避難所を見つけ、洗練された芸術文化の誕生を促しました。この親密で安全な環境が、フランス文藝復興の一翼を担いました。

博物館周辺

見学後は、下町の絵画的な路地を楽しんでください。サン＝ウルス教会のローマ風建築は、ロジのゴシック様式と愉しく対照的で、巡りを完了するのに最適です。ランチには**Le Clos des Tanneurs**で伝統的なトゥーレーヌ料理を味わい、その後ランシエ美術館で芸術的な休息を取ってください。城壁公園の日陰の散歩道では、インドル渓谷の景色を楽しみながら、見学の消化を図ることができます。市場広場では地元の人々の活気ある生活を観察し、ロワール渓谷の地域産品を購入することもできます。



ロッシュ王城を訪れることは、単なる過去の振り返りではありません。生きた歴史に触れ、石の間に宿る物語を肌で感じる体験です。混雑した大規模城跡とは異なる静かな深みを持つこの場所は、あなたの心に長く残る感動を提供するでしょう。ぜひ、ご自身のペースでこの宝を発見してください。